

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791200027		
法人名	社会福祉法人 一心福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護支援事業所 グループホームきじよか		
所在地	大宜味村字喜如嘉2087番地		
自己評価作成日	令和2年12月4日	評価結果市町村受理日	令和3年 4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=4791200027-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和3年 2月 5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①利用者一人ひとりを尊重し、あるがままを受け入れ、出来ていることが継続できるようにすること。 ②ご家族や地域との繋がりを大切に、その人らしい生活が送れるようにすること。 ③家庭的で居心地のよい環境作りを目指して日々の支援を行っています。看護職員が配置されたことで入所者のより良い健康管理を行い、かかりつけ医との連携に努めています。機能維持のため生活リハビリや軽い運動やゲーム等も会話しながら楽しく行い、入所者の明るく元気な生活が継続できるように支援しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>本事業所は、理念として、利用者が「家庭的でゆったりつづける、無理なく楽しく活動できる、安心できる生活、地域と繋がりがその人らしい暮らし」を掲げている。職員は理念をもとに、具体的な支援目標を掲げ、認知症である一人ひとりを尊重し、寄り添い、安心安全に日々を過ごせるよう全職員で実践につなげている。就業環境として、勤務表は介護職員の希望をもとに作成し、調理担当を中心とする職員もおり、勤務体制に配慮している。年間5日以上の年休取得の取り組みはもとより、入職後から年休取得が可能となっている。職員のメンタルチェック実施や夜勤職員の年2回の健診の実施に加え、35歳以上の人間ドックを推奨し、費用は事業所で対応するなど、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。食事は、3食とも事業所で職員が作っている。豆腐チャンプルーやソーキ汁等、馴染みの家庭料理を中心とした献立を法人の栄養士が作成し、利用者から要望の高い三枚肉や魚料理も献立に加えている。年間行事の際にも、チキンピザ等を提供し、デザートや果物等の差し入れも活用している。利用者は、野菜の皮むきや下膳、おしぼりたたみ等をしている。職員も利用者と同じ食事を一緒に摂っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 4月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
I.理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに職員に「事業計画書」を配布して、基本方針や理念を共有し利用者が安心して無理のない暮らしの支援を心がけることを確認する ・朝の申し送り時に支援目標を唱和する 	<p>理念について本事業所は、利用者が「家庭的でゆったりくつろげる、無理なく楽しく活動できる、安心できる生活、地域と繋がりその人らしい暮らし」を理念に掲げている。職員は理念をもとに、具体的な支援目標を掲げ、認知症であっても、一人ひとりを尊重し、寄り添い、安心安全に日々を過ごせるよう全職員で実践につなげている。</p>
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事や法人内行事、村開催の祭り等の行事に参加して交流している ・地域の保育所や婦人会、地域ボランティアを受け入れ交流を図っている ・家族や友人の面会や外出の希望に答えている ・昨今はコロナ感染予防で自粛している 	<p>地域とのつきあいは、従来は地域の祭りや行事等に参加したり、近隣2地区の婦人会と交流している。毎月歌ボランティアが来訪し、ギター演奏や三線で学校唱歌や馴染みの歌が演奏され楽しまれている。地域の保育園や小中学校等との世代間交流も行われている。近隣からゴーヤー等の野菜を頂くこともある。現在はコロナ禍で、外出や訪問も自粛中であり、制限している。</p>
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所から出向いての活動はできていないが、地域からの問い合わせがあった場合は対応している 	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・奇数月に年6回開催しており、施設の状況報告等を行い、情報交換時に意見やアドバイス等を伺っている ・運営推進会議の会議録については、参加者や発言者分かるように取り組んでいる 	<p>運営推進会議については、利用者や家族、行政、地域包括支援センター職員、民生児童委員や福祉活動専門員、地域代表等の構成員が参加している。会議では、利用者の活動状況や事故・ヒヤリハット等の報告が行われ、参加者からの意見やアドバイスが議事録に丁寧に記載されている。コロナ禍で開催されないことが数回あり、委員の方へ資料を送付しているが、意見等の記録は確認できなかった。</p>
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・村福祉課と包括支援センターの職員を運営推進会議の委員として参加していただき、利用者の動きや状況、身体拘束廃止に向けての取り組み等について報告、また随時情報交換を行い連携を図っている 	<p>村との連携については、コロナ禍で開催は少ないが、運営推進会議の案内や資料を行政職員に持参した際に情報交換している。会議では、アドバイスや地域の情報を得ている。事業所は高齢者支援等について、行政と協力関係を築くよう取り組んでいる。村からオレオレ詐欺(買取詐欺)に関する情報があり、利用者や家族にも注意するよう情報提供をしている。</p>

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 4月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・「身体拘束等適正化のための指針」を職員に配布して、基本的に身体拘束はしないことを確認し身体拘束とはどんなものなのかについて注意喚起を図っている ・疑問に感じていることや状況があれば随時話し合い対応方法を検討している 	<p>身体拘束をしないケアについては、毎月の職員会議で利用者状況や事故・ヒヤリハット等が検討されるとともに、身体拘束をしないことのリスクについても話し合われている。職員間で話し合った内容をもとに、運営推進会議の場で話し合わせ、委員からの助言等もあり、身体拘束廃止適正化検討委員会の記録が作成されている。年2回(6月、11月)、勉強会が実施されている。</p>	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・研修参加はなかったが拘束防止に関する話し合いの際にが虐待となるようなケースも想定し理解を深めるようにした 	<p>虐待防止については、コロナ禍でグループホーム協会主催の外部研修には参加できなかったが、身体拘束に関する内容とともに、虐待に関する勉強会が実施されている。日々の支援における職員の対応等については、ミーティングや毎月の会議、身体拘束廃止適正化検討委員会で話し合わせ、虐待防止に努めている。虐待対応マニュアルも作成されているが、見直しを期待したい。</p>	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の機会があったが参加できていない 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・入所時に、利用契約書と重要事項説明書について説明を行い、質問等があれば気軽に話してくれるよう説明している 		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・面会や受診時に利用者の近況を報告し、ご家族の意見を聞く機会を作っている 	<p>利用者、家族等の意見については、コロナ禍で外出や家族面会等も制限されている中、利用者から「そろそろ桜を見に行きたい。自分の家に行きたい。」等の声があり、意向を踏まえ、グループホーム側の小学校跡地の桜並木の観賞をしたり、ドライブがてら利用者宅付近に出かけている。家族の要望を受け、病院の送迎を行ったこともある。コロナ禍で面会禁止の中、共用空間の利用者と窓越しに面会してもらおう工夫をしている。</p>	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 4月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険施設間の報告会において、事業所の状況報告をしたり問題点等あれば相談や提案をする機会がある ・職員会議にてサービスや業務改善等の提案を行い出来ることから実施している 	<p>職員意見については、日頃から意見を聞くようにし、ミーティングや職員会議の場で意見を聞くとともに共有している。職員から「昼休みを取りたい。」との意見があり、事務所の一角にスペースを確保して長いソファを設置し、休憩時の仮眠やリフレッシュの場として活用されている。今年度は、6人の職員が異動しており、その影響かは定かではないが、当初は入浴支援を拒否する利用者もいたとの話であった。</p>	<p>認知症グループホームの特性を踏まえ、利用者と職員の馴染みの関係に配慮した職員異動が望まれる。</p>
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の年休取得の5日以上を取得を取り組んでいる ・職員は正職・臨時問わず入職直後に年休の取得が可能となる ・毎月の勤務は休日の勤務等、偏りが無いよう作成に努めている ・臨時職員でも努力次第で正職員への登用制度がある 	<p>就業環境について、勤務表は介護職員の希望をもとに作成し、調理担当を中心とする職員もおお、勤務体制に配慮している。年間5日以上年休取得の取り組みはもとより、入職後から年休取得が可能となっている。職員のメンタルチェック実施や夜勤職員の年2回の健診の実施に加え、35歳以上は人間ドックを推奨し、費用は事業所で対応するなど、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。</p>	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修や主任リーダー研修等施設内研修が開催され多くの職員が参加できるようにしている ・外部研修もできる限り参加できるように取り組んでいる ・参考文献やインターネットからの資料等を提供している 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険施設間の勉強会で、グループホームや小規模多機能型事業所等と意見交換を行い新しい情報を取り入れたりできる ・職員交流でサービスの在り方を学ぶ機会を設けている 		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント情報をもとに、声掛けや傾聴を心がけ、職員間連携しながら安心して共同生活を送られるよう支援に努めている 		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 4月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入所時に、家族の不安や要望、思いを気兼ねなく話せる機会を作り、良好な関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・支援目標を基に職員間で共有し支援に努めている ・利用者様ひとりひとりに合った支援サービスに努めている ・利用者様ご家族の状況等配慮して対応できることを説明している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・朝の会で職員の自己紹介と「わーかーしんか」を皆で唱和し今日一日、楽しく過ごせるようスタートしている ・信頼関係が築けるように接する ・楽しく生活ができるよう、会話を増やすようにしている ・家庭的な雰囲気の中で安心して暮らしてもらえるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・本人にとって、一番大切な家族であることを意識して対応している ・キーパーソンを中心にして家族間連携して協力体制が取れるように心がけている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・地域行事への参加は職員人数少なく難しい状況である(見守り人数確保できない状況) ・家族の協力のもと、支援に努めていた ・昨今はコロナ感染予防で自粛している	人や場との関係継続について、これまでは毎月、歌のボランティアと一緒に歌会を行ったり、保育園園児がハロウィンで来訪し、利用者と交流していた。地域の豊年踊り等の行事にも出かけ、地域の人と関わる機会が計画されていたが、コロナ禍での自粛の中、ドライブがてら利用者宅近隣へ出かけたり、法人のデイサービスに出かけるなどして、馴染みの場所との継続支援に努めている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 4月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・余暇を通して孤立しがちな方の横で一緒に参加し、孤立感を持たれないよう支援している ・余暇支援により、支え合えるように努めている ・利用者同士の関係性も考慮し配慮している 		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・長期入院になる可能性がある方の入院中の様子を伺ったり、契約終了後も体調が良くなれば再利用ができる旨説明する等、相談調整に努めている 		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の個々の思いを傾聴し、日常の支援に努めている 	思いや意向については、アセスメントでの把握や利用者の現役時代の話を話題にしながら思いを聞き取るようにしている。殆どの利用者が発語がある中、日々の生活では、「ドライブをしたい。カラオケをしたい。」等の思いを聞き取り、近隣地域をドライブしたり、カラオケを借用して利用者が好きな歌を歌う等、コロナ禍においても楽しみの時間を見出せるよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントから情報を得たり、本人との会話から新しい情報を得るように努めている ・家族の方との会話から新しい情報を得ることがあるので大切にしている 		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・声掛けと会話を多くしメンタル面の把握をしている ・朝の申し送り時に利所者の現状や経過等報告行っている ・バイタルチェックを朝夕行い健康管理に努め、心身状態を把握する 		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 4月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・日常生活の中で変化があった場合、情報を共有し統一したケアを実施している	介護計画やモニタリングについては、介護計画の長期目標を有効期間とし、短期目標は初回は半年、2回目は1年となっている。職員は利用者の担当制となり、毎月及び半年ごとに評価し、半年毎に計画の見直しを実施している。日々の支援経過記録も丁寧に記載されている。更新時は、利用者及び家族も参加し、杖歩行での転倒により4点キャスターで様子を見る等、会議の場で支援内容等を共有している。半年毎に見直しがされていることから、短期目標は半年が期待される。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・利用者個々の状況を振り返り評価し、記録し次月以降に生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・家族が受診に対応できない場合等、付き添い支援を行っている ・一人一人のニーズに合った内容のサービスを検討し実践に努めるようにしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域ボランティアへを、定例化して歌会等実践している ・近隣の保育所と定期で交流会を行っている ・婦人会のボランティアを受け入れ交流している ・昨今はコロナ感染予防で自粛している		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入所時に本人が通院している診療所や病院を確認して継続しており安心して治療が受けられるようにしている ・定期受診日に同行してホーム入所していること伝え相談助言等をもらう ・大宜味村診療所のオンライン診療を月2回導入し、感染予防と家族の負担軽減を図る支援をしている	利用者は馴染みのかかりつけ医を継続して受診している。定期・他科受診は家族対応を基本とし、必要時は職員も対応している。今年度から週1回勤務の看護師が配置され、診療の記録、情報提供書の作成、医療連携等で職員と協力して取り組んでいる。村立診療所では、11月よりオンライン診療が可能となり、負担軽減や感染対策面で配慮され、スムーズな受診に繋がっている。3名の方が、週1回の訪問歯科を利用し、健康診断やインフルエンザ予防接種も家族対応で行われている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 4月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の身体の変化を看護師へ報告しアドバイスをもらい支援を行っている ・家族との相談等や受診時の医師のコメントを看護師へ報告し利用者の心身の状況に適したケアに繋げている 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入院時はできる範囲で面会をし看護師等から病状等把握に努め、又、地域連携室と連携を図りスムーズな退院支援を行っている 		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・入所時に、緊急時の受診病院を確認しており、受診等必要に応じて事業所に対応できることを説明している 	<p>重度化や終末期に向けた方針については、契約時に家族等に説明している。「介護リスク説明書」により、緊急時の対応についての意思確認を行い、「グループホームにおける重度化対応に関する指針」で、看取り介護についての説明をして、家族等の意向に添えるよう職員の共有にも努めている。看取りの体制づくりや職員研修を課題としている。</p>	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・救命方法の研修に参加し実践力を身に付けている ・マニュアルを作成して掲示している ・看護師から皮膚トラブル、傷の応急手当方法を学ぶ機会があった 		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、日中総合訓練を7月、県広域地震・津波避難訓練を11月実施(感染予防で近隣地区の協力要請は無し) ・2月夜間訓練を予定 	<p>年2回の昼夜想定避難訓練を計画し、7月に1回目の昼間想定訓練を実施している。総合訓練概要に沿って訓練を行い、「避難時は、タオルやハンカチで口元を押さえ、煙を吸わせないようにしたほうがよい。」との報告もまとめられている。広域の地震・津波避難訓練にも参加している。地震・津波・台風時の対応マニュアルが整備され、備蓄リストを作成し、水や缶詰、レトルト食品等を利用者と職員の3日分程用意している。</p>	<p>夜間想定訓練の実施が望まれる。併せて、7日分程度の備蓄の確保にも期待したい。</p>

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 4月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・敬いの気持ちをもって会話している ・人生の先輩として、尊重し言葉かけ対応には気を付けている 	利用者の平均年齢は、89.7歳で、職員は、先輩として利用者を敬いつつ、声のトーンや語調に配慮しながら、わかりやすく話すよう心がけている。利用者個々の職歴や学歴、生活歴、趣味等を把握し、仕事や得意なスポーツ、カラオケの話題等を通してコミュニケーションを図っている。排泄支援時は引き戸のドアと室内のカーテンを閉めて対応している。個人情報保護方針と利用目的を掲示し、同意書も取っているが、特定した利用目的を追加し、家族等へも再度説明することに期待したい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・余暇支援においても自己で選んでいける様準備している 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の状態を観察し本人の意向に沿った形で支援している 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・起床時や昼寝後には、ブラッシングして髪を整えるようにしている ・散髪等の適宜促している 		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・行事に合わせて食事を作ったり盛り付けをして提供し、個々の出来る範囲の参加を促している ・野菜の下ごしらえ等してもらっている ・食事済まされた後、コップの片付けやおしぼり等、自分で台所まで運ばれたりする方もいる 	食事は、3食とも事業所で調理担当職員を含む職員が作っている。豆腐チャンプルーやソーキ汁、チムシン汁等馴染みの家庭料理を中心とした献立を法人の栄養士が作成し、利用者から要望の高い三枚肉や魚料理も献立に加えている。夏のそうめん流しで、利用者の食欲と食べる楽しみを喚起し、他の行事の際にも、特別な料理やチキン・ピザ等を提供し、デザートや果物等の差し入れも活用している。利用者は、野菜の皮むきや下膳、おしぼりたたみ等をしている。職員も利用者と同じ食事を一緒に摂っている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 4月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・個別の状態(全介助・半介助・声掛け)に合わせて支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後口腔ケアは必要に応じて支援を行い、口腔内のトラブルがあれば歯科往診を依頼して対応 ・2名の利用者は定期的に歯科往診を受けている		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄を促し個々のペースに合った時間で支援している	利用者の排泄パターンについては、本人の訴えやソワソワしだす等の動きを観察して把握し、できるだけ失禁を少なくするよう支援に努めている。利用者は各居室に設置されたトイレを使用し、夜間のみ、おむつを使用する利用者もいる。日中・夜間ともに見守りを中心に支援し、利用者ができることはやってもらい、機能の維持や改善につなげている。車いすからの移乗、衣服の上げ下げ等、徐々に自分でできるようになった利用者がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排泄チェック表を確認してそれぞれの習慣に合わせて整腸剤や下剤で対応している。 ・体操、踏み台を活用した下肢筋力運動や散歩などを行っている		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・週3回(月・水・金)午前中に行っている ・安全確保、転倒予防のためマンツーマン対応 ・体の大きい利用者はリスク回避で2人対応	入浴は、週3回午前中に、同性介助を基本として支援している。利用者の羞恥心やプライバシーの保護に留意し、カーテンを二重にしている。愛用のシャンプーを使用する利用者や歌を歌いながら入浴する利用者がある。人事異動によって過半数の職員が入れ替わり、一時的に入浴拒否が増えたが、在職歴の長い職員を中心に丁寧な支援を心がけ、早い段階で解消している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 4月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・昼食後、居室で午睡され方もいれば談話ホールのソファで休まれる利用者もおりそれぞれに支援している ・音楽が好きな利用者様へはCDを音楽を流して聞きながら休んでいただいている 		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師が1週間分の薬を服薬カレンダーにセットし指定された時間帯にそれぞれ服薬支援している ・その日の身体の状況や行動に応じて処方された頓服薬を提供している ・薬の変更があった場合等、報告して服薬後の行動等に変化がないか確認を行い家族へ申し送る等対応している 	利用者一人ひとりの服薬状況については、「薬情ファイル」に処方箋が写真入りで整理され、「個別薬一覧表」でも確認ができるようになっている。「投薬マニュアル」が整備され、看護師が1週間分を服薬カレンダーに配薬し、職員が食事の前に1回分ずつを薬箱にセットして支援している。服薬後の確認は、「食事・服薬・バイタルチェック表」の記録でもその都度確認し、誤薬がないよう安全な服薬支援に努めている。現行のマニュアルに、誤薬発生時の対応、再発防止ための検討会議、議事録の共有等についても追記することを期待したい。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・余暇支援等で行われている ・散歩や天気の良い日に屋外でおやつを提供し、コミュニケーションをする機会を設けるなど気分転換を図る支援を行っている 		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・「住んでいた家を見たい」と希望する利用者に対し自宅までドライブし、家に入ることはできないが少しの時間、庭で過ごしたことがある ・家族の対応で外出をして家族交流したりドライブを楽しむことがある ・昨今はコロナ感染予防で自粛している 	日常的には、敷地周囲や隣接する小学校跡地のグランドを散歩している。玄関前やベランダの外気浴、菜園の野菜の見物、跡地の校庭の散策も支援し、利用者の希望に応じて自宅へのドライブ等も実施している。感染対策に留意しながら、リフトバスで国頭村等へのドライブや地元公民館巡りのミニドライブ等も支援している。季節に応じて、近隣の桜やツツジの花見にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・「お金を持っていたい」と希望される利用者には本人と家族と職員で確認し持たせている ・必要物品の購入は職員が家族へ伝え購入して届けていただいている ・携帯で家族へ物品購入を依頼される利用者さんもある 		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 4月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人から電話の要望があった時に随時支援している ・年賀状を家族等へ送っている ・ご自身で携帯を使用し連絡を取り合っている利用様も1名おられる 		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・季節感を取り入れて壁面の飾り付けを利用者と共に行っている ・毎月の活動の様子をスナップ写真に収め壁に掲示している ・太陽の光を不快に感じる時は、カーテンを閉めて安心できるように支援している ・居室のにおいや汚れがあるときは清掃行き清潔を保つようにしている 	共用空間に関しては、利用者が落ち着いて穏やかに過ごせるよう家具調の内装が施され、木工の調度品の設置、自然を取り入れた清潔な環境づくりに努めている。玄関内に手洗い場が設置されている。イベント等に活用できる畳間、ソファコーナー、ウッドデッキ型のベランダ、観葉植物が眺められる中庭、広い廊下奥の掃きだし窓側には木製ベンチが配置され、利用者がゆったり寛げるよう配慮されている。朝日の直射日光が厳しいベランダ側は、午前中カーテン等で調整している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食堂の座席配置を利用者同士気の合った方をマッチングし配慮している ・ウッドデッキに出て外を眺めたり、ソファに座ってゆったり過ごしている姿をみる時々ある 		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入所時に使い慣れたタンスや椅子等を持参されており活用している ・居室の壁に家族のスナップ写真等を張って家族の存在を身近に感じられるよう配慮している 	居室には、ベッドやエアコン、カーテン、洗面台、トイレ、温湿度計、加湿器、ナースコール等が設置されている。部屋ごとに趣の違うタンスも設置されている。利用者は、馴染みの収納ボックスやテレビを持ち込み、壁には家族写真や祝いの記念写真等を飾り、愛着のある手帳を置いている利用者もいる。排泄時は自室のトイレを使用している。洗面台とトイレコーナーのカーテンは、排泄時だけでなく、在室時にも閉める等の配慮に期待したい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・建物内バリアフリーで室内では照明やテレビのリモコンをご自身で操作できるよう手元に置いている 		